

平成24年3月期 決算ハイライト



平成24年3月期 決算の概要（総括）

- 経常収益は58,524百万円（前期比+ 678百万円、4期ぶりの増収）
- 経常利益は13,450百万円（前期比+2,492百万円、3期連続の増益）
- 当期純利益は、法人税率改正による繰延税金資産取り崩しの影響もあり6,083百万円（前期比△860百万円、3期ぶりの減益）
- 全体としては、平成19年3月期以来5期ぶりの増収減益
- 単体自己資本比率は前期比△1.12%の13.20%となりました。
- 金融再生法開示債権が総与信に占める割合（不良債権比率）は前期比△0.09%の3.14%となりました。

(1) 損益の概要

【単体】

（単位：百万円）

	23年3月期	24年3月期	増減額	増減率
経常収益	57,846	58,524	678	1.1%
経常利益	10,958	13,450	2,492	22.7%
当期純利益	6,943	6,083	△860	△12.3%
コア業務純益	17,062	18,270	1,208	7.0%

【連結】

（単位：百万円）

	23年3月期	24年3月期	増減額	増減率
経常収益	70,130	70,160	30	0.0%
経常利益	13,000	14,865	1,865	14.3%
当期純利益	7,435	6,314	△1,121	△15.0%

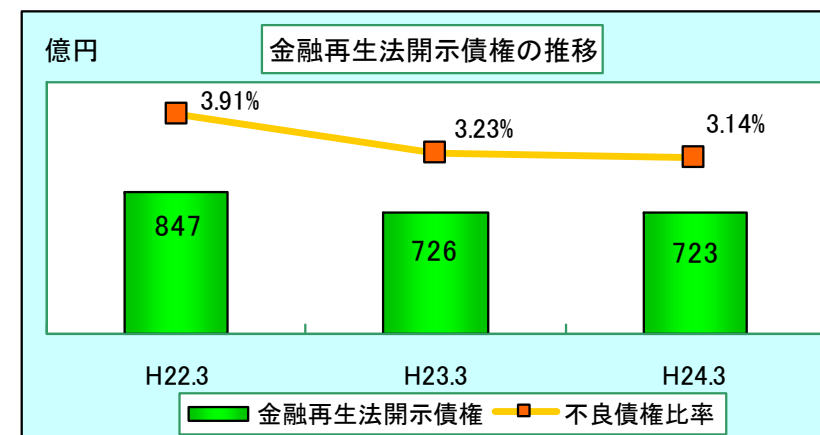
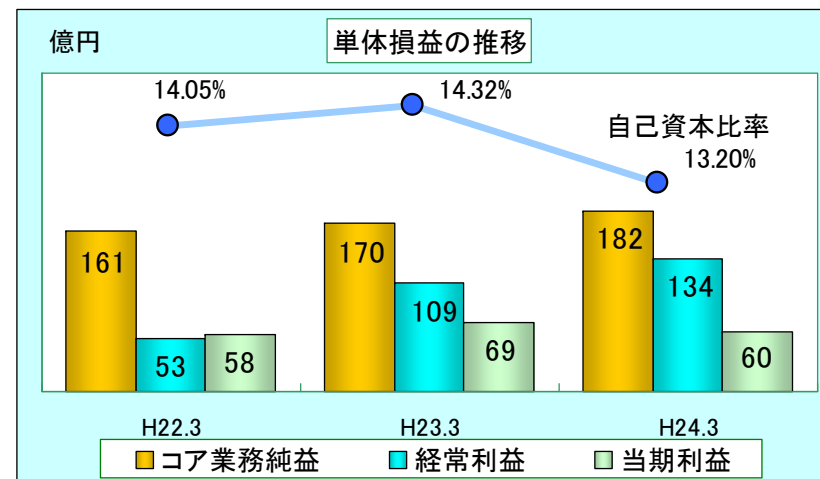
(2) 自己資本比率【単体】

	23年3月末	24年3月末	増減
単体自己資本比率	14.32%	13.20%	△1.12%
（Tier1比率）	（12.26%）	（12.25%）	（△0.01%）

(3) 金融再生法開示債権【単体】

（単位：百万円）

	23年3月末	24年3月末	増減
金融再生法開示債権	72,677	72,365	△312
（不良債権比率）	（3.23%）	（3.14%）	（△0.09%）



平成24年3月期 決算の概要（単体）



• 業務粗利益（除く債券関係損益）	48,669百万円（前期比 + 108百万円）
• 経費	30,398百万円（前期比 △1,101百万円）
• コア業務純益	18,270百万円（前期比 +1,208百万円）
• 経常利益	13,450百万円（前期比 +2,492百万円）
• 当期純利益	6,083百万円（前期比 △ 860百万円）

（百万円）

	H23. 3	H24. 3	増 減
業務粗利益	49,202	49,177	△ 25
（除く債券関係損益）	48,561	48,669	108
資金利益	42,377	42,405	28
役務取引等利益	5,891	5,902	11
その他業務利益	934	869	△ 65
うち債券関係損益	640	508	△ 132
経 費 (△)	31,499	30,398	△ 1,101
コア業務純益	17,062	18,270	1,208
一般貸倒引当金繰入額 ① (△)	2,117	△ 273	△ 2,390
業務純益	15,585	19,052	3,467
臨時損益	△ 4,627	△ 5,602	△ 975
うち株式関係損益	△ 1,272	△ 359	913
うち不良債権処理額 ② (△)	2,638	6,008	3,370
うち償却債権取立益 ③	—	1,536	1,536
経常利益	10,958	13,450	2,492
特別損益	895	△ 346	△ 1,241
うち償却債権取立益 ③	1,371	—	△ 1,371
当期純利益	6,943	6,083	△ 860
実質不良債権処理額 ①+②-③	3,384	4,197	813

[業務粗利益（除く債券関係損益） 前期比+108百万円]

- ・ 資金利益、役務利益及びその他業務利益（除く債券関係損益）いずれも前期を上回る。

[経費 前期比△1,101百万円]

- ・ 物件費はシステム委託見直しを中心にその他鋭意コスト圧縮。
- ・ 人件費についても生産性の効率化に努めた結果減少。

[コア業務純益 前期比+1,208百万円]

- ・ 業務粗利益（除く債券関係損益）が増加したことと経費の減少により増加。

[経常利益 前期比+2,492百万円]

- ・ コア業務純益の増加に加え、会計基準の変更も影響。
（償却債権取立益 従来：特別利益→今期：臨時損益）

[有価証券関係損益 前期比+779百万円]

- ・ 債券関係損益 前期比△132百万円
- ・ 株式関係損益 前期比 +913百万円
株式関係損益の改善は償却費用が減少した影響

[実質不良債権処理額 前期比+813百万円]

- ・ 大口取引先の破綻等がなかったことから、前期を若干上回るものの、当初見込み（年間60億円）を下回る落ち着いた水準で推移。

[当期純利益 前期比△860百万円]

- ・ 法人税率改正による繰延税金資産の取り崩しの一時的要因により前期比減少。

[配当]

- ・ 当期純利益の水準に照らし合わせて前期と同じく年間6円

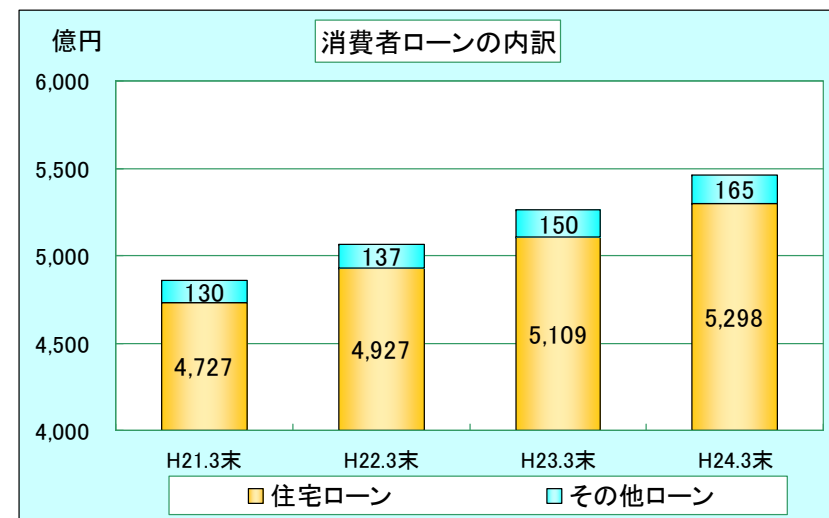
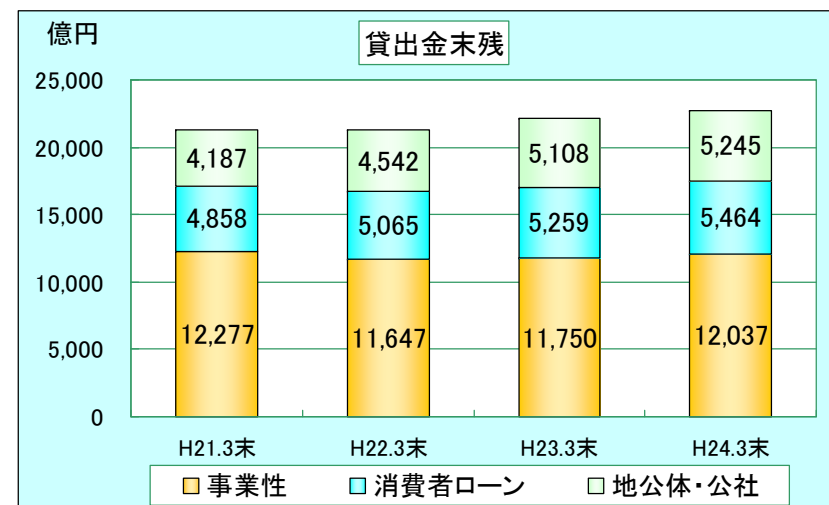
貸出金

- 貸出金残高は事業性貸出、消費者ローン及び地公体等貸出がいずれも増加し、前期比+629億円の2兆2,747億円となりました。
- 事業性貸出金は前期比+287億円の1兆2,037億円となり、2期連続の増加となりました。
- 消費者ローンでは住宅ローンに加え、その他ローン（カードローン、マイカーローン等）も順調に増加しております。

○貸出金の内訳

(億円)

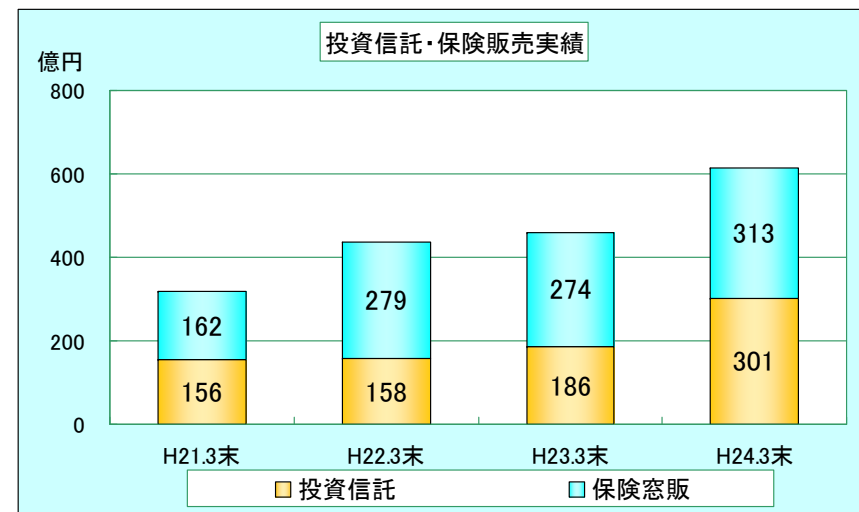
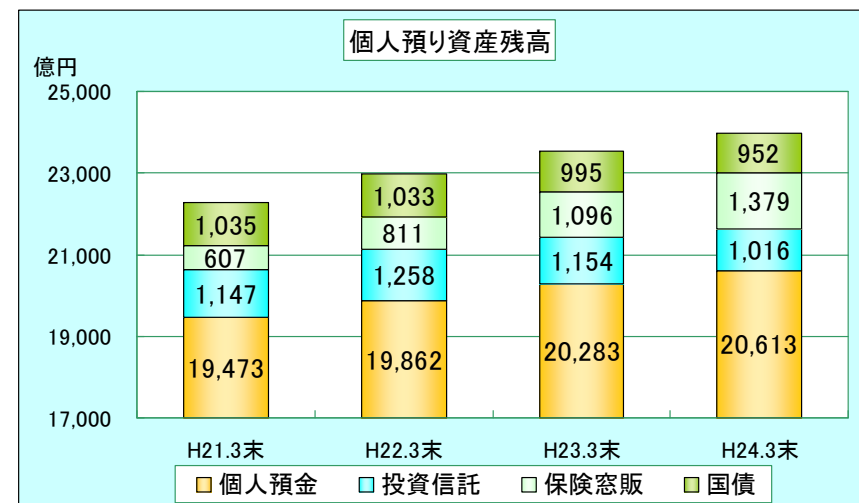
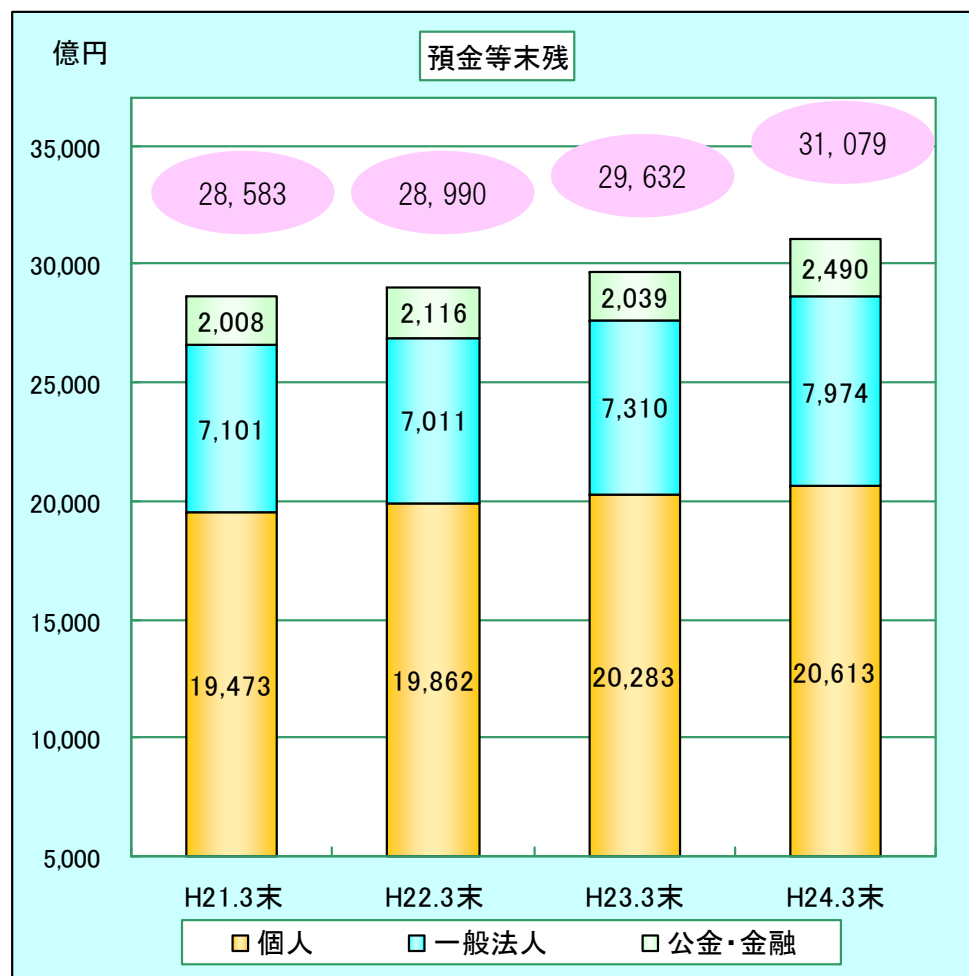
	H21.3末	H22.3末	H23.3末	H24.3末
事業性貸出	12,277	11,647	11,750	12,037
消費者ローン	4,858	5,065	5,259	5,464
うち住宅ローン	4,727	4,927	5,109	5,298
うちその他ローン	130	137	150	165
地公体等	4,187	4,542	5,108	5,245
貸出金計	21,623	21,256	22,118	22,747



預金・預り資産

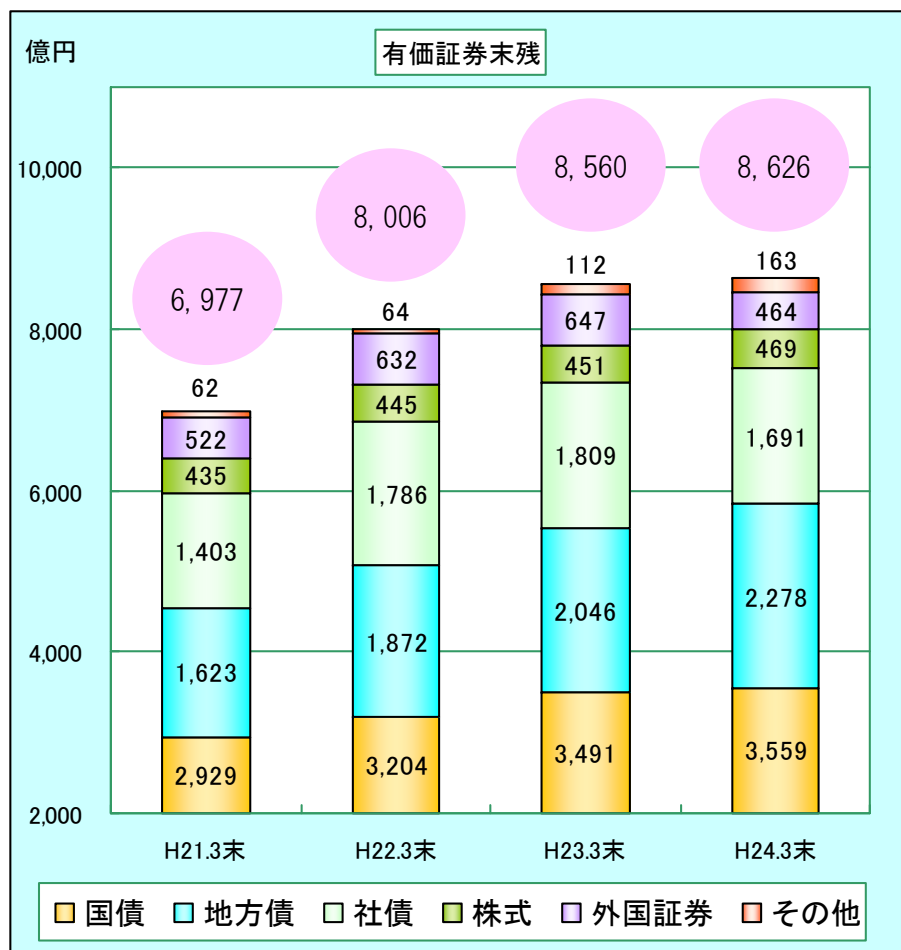
- 預金（含む譲渡性預金）は個人預金、法人預金及び公金・金融預金ともに順調に推移し、前期比1,447億円増加の3兆1,079億円となりました。
- 個人預り資産では、投資信託販売は回復傾向にありましたが、時価下落要因により残高は減少しました。
- 一方、保険窓販は販売が順調に推移し、残高も増加しました。

○預金等末残



- 有価証券残高は国債、地方債を中心に増加し、期末残高は前期比+66億円の8,626億円となりました。
- 有価証券の評価損益は、株式は減少しましたが債券を中心に増加し、全体では前期比3,162百万円増加の38,879百万円となりました。

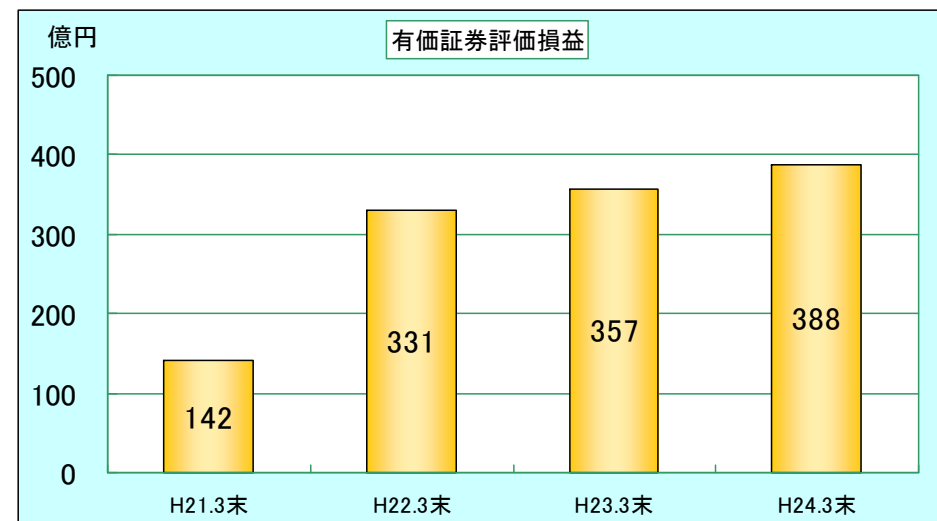
○有価証券末残(取得原価ベース)



○有価証券の評価損益

(百万円)

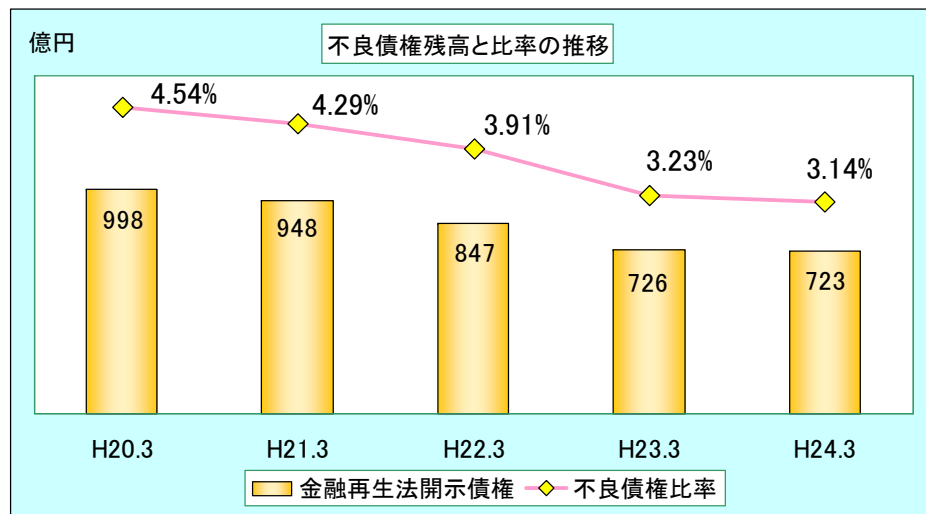
	H21.3末	H22.3末	H23.3末	H24.3末
評価損益合計	14,229	33,164	35,717	38,879
株式	14,973	22,258	26,065	22,483
債券	2,816	10,636	9,809	15,767
その他	△3,560	270	△157	628



不良債権残高／自己資本比率の状況

- 不良債権比率は前期比△0.09%の3.14%に低下しました。
- 自己資本比率は、劣後特約付社債の償還によりTier2が減少したことや、貸出金の増加によるリスクアセットの増加から、前期比△1.12%の13.20%となりました。一方、自己資本の質の高さを示すTier1比率はほぼ前期並みの12.25%となりました。

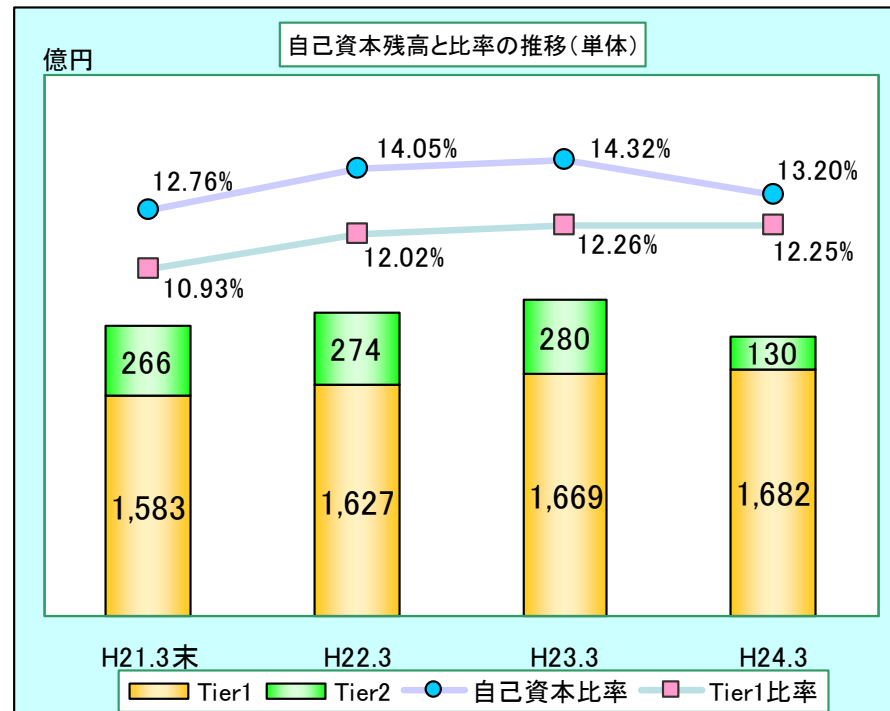
○不良債権残高の状況



(億円)

	H20.3末	H21.3末	H22.3末	H23.3末	H24.3末
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	167	259	236	179	168
危険債権	663	661	598	536	493
要管理債権	167	27	11	11	61
計	998	948	847	726	723

○単体自己資本比率



	23年3月末	24年3月末	増減
単体自己資本比率	14.32%	13.20%	△ 1.12%
(Tier1比率)	(12.26%)	(12.25%)	(△ 0.01%)
連結自己資本比率	14.68%	13.62%	△ 1.06%
(Tier1比率)	(12.66%)	(12.70%)	(0.04%)

平成25年3月期業績予想

- 本業部分のコア業務純益は運用利回りの低下を見込み、前期比減少を予想しております。
- 経常利益はコア業務純益の減少と不良債権処理額の若干の増加を見込み、前期比減少を予想しております。
- 当期純利益は前期と同水準を見込んでおります。

○平成25年3月期業績予想

【単体】 (通期)

(百万円)

(第2四半期)

	24年3月期	25年3月期		24年3月期	25年3月期
経常収益	58,524	55,000	経常収益	29,769	28,000
経常利益	13,450	11,000	経常利益	6,100	6,000
当期純利益	6,083	6,000	当期純利益	3,448	3,500
コア業務純益	18,270	17,000	コア業務純益	9,279	8,500

【連結】 (通期)

(第2四半期)

	24年3月期	25年3月期		24年3月期	25年3月期
経常収益	70,160	65,000	経常収益	35,608	33,000
経常利益	14,865	12,200	経常利益	6,770	6,600
当期純利益	6,314	6,300	当期純利益	3,570	3,700

1株当たり配当金

年間	うち中間	うち期末
6円00銭	3円00銭	3円00銭

コア業務純益

- 市場金利が低位で推移することによる運用利回りの低下によって、資金利益が減少すると見込まれることから、前期比減少を予想。

経常利益

- コア業務純益の減少と不良債権処理額の若干の増加を見込み、経常利益は減少を予想。
- 不良債権処理額予想（通期55億円）

当期純利益

- 前期に発生した法人税率改正に伴う繰延税金資産取崩しの一時的要因が無くなることから、当期純利益は前期並みの水準を予想。

配当

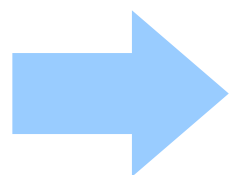
- 配当は、安定配当に加え、配当性向25%~30%を目処とする業績連動配当の考えに基づき実施する。
- 安定配当は6円となる見込み。

世界経済

ヨーロッパの財政問題
イランの核と原油
中国経済の停滞
新興国・資源国

国内経済・地域経済

原発問題、電力不足
円高基調、ガソリン高騰
復興需要
財政赤字－増税問題



地域経済は依然として厳しい

経営支援・事業再生

- ・金融円滑化法への対応
- ・コンサルティング機能の発揮
- ・再生ファンドの活用
- ・サービサーの活用「北國債権回収」
- ・支援協議会等との外部連携

地域経済活性化

- ・北陸新幹線の金沢開業(H27/3)
- ・リレバンの地道な実践
- ・地域に磨きをかける
- ・海外ビジネス支援

名称

QCS'S (Qシーズ)

Q...Quality : 質のさらなるアップ
C...Cost : コスト削減の継続、メリハリある管理
S...Speed : さらなるスピードアップ
S...Smile : CSのさらなるレベルアップを
(サービス業の原点である笑顔(Smile)、おもてなしの心、美化の徹底)

計画期間

2012年4月～2015年3月(3年間)

基本方針

笑顔のコミュニケーションを通じ、CS(顧客満足度)の向上、顧客目線のサービスを基本として、①クオリティ②スピード③コストを常に意識してあらゆることにチャレンジして、地域にとって、地域の皆さまにとって信頼のおけるパートナーとなれるよう行動します。

基本戦略

- ① リレーションシップバンキングの強化
- ② クオリティアップ・スピードアップ
- ③ コスト削減
- ④ リスク管理・コンプライアンスの徹底

新中期経営計画「QCS'S (Qシーズ)」

創立70周年（平成25年12月）

新システム「Bank Vision」

タブレット端末

これからもよろしくお願ひいたします。